

【会議録】

会 議 名	第3回港区放課GO→クラブおなりもん運営事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和5年12月22日（金） 午前10時00分から午前12時00分まで
開 催 場 所	芝地区総合支所会議室
委 員	（出席者）阿部委員長、岩崎副委員長、秋山委員、田中委員、矢ノ目委員、阿部委員 （欠席者）なし
事 務 局	芝地区総合支所管理課長 小野口、施設運営担当係長 久保田
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査 （1） A事業者（プレゼンテーション10分間、質疑応答20分間） （2） B事業者（プレゼンテーション10分間、質疑応答20分間） 3 第二次審査結果及び運営事業候補者の選定について 4 その他 5 閉会
配 付 資 料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（2事業者分） 資料3 第2回港区放課GO→クラブおなりもん運営事業候補者選考委員会 会議録（案） 参考資料 第一次審査集計結果（第一次審査通過事業者のみ抜粋）
会議の結果及び主要な発言	
委員長	1 開会 2 第二次審査 （1） A事業者（プレゼンテーション10分間、質疑応答20分間） それではヒアリングに入らせていただきます。 順番にお願いをいたします。
B委員	非認知能力の育成に力を入れて取り組まれていると思いますが、放課GO→クラブおなりもんで具体的な新たな取り組みを教えてください。
A事業者（施	非認知能力は、測定できない能力としてまた子どもたちに、児童の将来や人間性の構

設長候補者)	築をするために、必要な能力だと思います。日々の生活の中でも、職員全体が非認知能力という概念から研修を行います。その中で言葉だけとか、普段の遊びとかプログラムもそうですが、例えばチャレンジする。心を育むために、ゲームタイムというものを、施設の方では考えており、偶数の月に新しいゲームがあることを子どもたちに教えて参加できるように声かけをしています。参加することで子どもたちにやってみようという気持ちを起こさせるように取り組みます。奇数月にそのゲームを基にした大会を用意して今度はチャレンジするという機会を設けます。子どもたちは勝っていくことで、僕の得意分野や好きなことを自覚することで自信にも繋がり、負けたことに対して、悔しいと思うことは挑戦になると思います。そこへの声掛けも大事ですし、あとは勝った子に対して表彰するというので、いろいろな子どもたちの立場を考えながら、非認知能力をプログラムの中に入れて考えて実施していきます。
B委員	発達に課題がある子、その人たちの支援、受け入れの考え方、取り組みを挙げていただけますか。
A事業者（施設長候補者）	保護者からのヒアリングはもちろんです、学校の先生、担任先生がその情報を知っています。学校との情報共有はもちろんです、支所会などで保育園の先生との繋がりもありますので、そういった幼児に、保育園のときにどういう対応をしたのか、ということを経験共有をした上で、放課GO→としてどういう対応をするのか、お子様にも、保護者の方にもどれがベストかというのを考えて対応していきます。
C委員	職員との関わり、或いは指導ということで、資質能力の不足している職員にどう対応していくのか、過去に経験があれば対応を教えてください。なければ想定した上で、そういう人たちをどういうふうに指導していくか、お聞かせいただけますか。
A事業者（施設長候補者）	私としてはチームとして、子どもたちに取り組むことを職員の方にはしております。放課GO→として子どもたちを育てる中でこういう目標で我々は仕事をしているという目標意識を職員の方に伝えていきます。子どもとの距離感ということで、学習指導で子どもに答えを聞かれると、教えてしまうことは子どもが自分でやる機会を失っているわけなので、そういうこともありますよ、と気づいたところに関しては、職員にもよりますが、全体のミーティングのところで話して、他のみんなもそういう形で、子どもたちを見守りましょう。と言ったり、先生個別に対応して話させていただきました。
C委員	対応されてなかなかそれが身につかないとか、或いは、自己反省できないとか、或いは同時並行で、研修がかなりさかんであるけれど、そういう場合には、積極的に研修を受けさせることをされるかどうか、そして戻ってきたときにどう行動するか。
A事業者（施設長候補者）	月1回、ミーティングがあり、常勤従事者全員集まって、全体で研修を受講するようにしております。さらに、非常勤から施設長まですべての職員が意見を共有できるように自分が率先して話すことで話しやすい環境を作る工夫をしています。
E委員	職員の配置想定が6名から8名程度で、経験者を多く配置するということですが、概

	ねどれくらいの経験年数のある職員を配置する予定なのかを聞かせてください。
A事業者	職員配置は7名を平均と考えております。大型のプログラムの際にはプラスで1名、配置をすることも検討しております。常勤の職員を4名配置することで、土曜日の代休をとった職員がいたとしても、毎日3名、施設の常勤が配置されることを考えております。施設長候補者が休暇の場合もありますので、その他の職員でも、サブリーダーとしてつく職員には4年以上の経験者を配置します。また、職員は他区での経験ではなく、港区内での経験がある職員を必ず配置していきます。また、その他の職員については、毎年新入社員が配置される可能性はありますが、新入社員が2名入るといようなことは決してなく、もう1名についても港区内での経験がある職員を配置することで、安全安心を確保していこうと考えております。
E委員	港区子どもの居場所として、中高生プラザ、児童館、いろんな居場所がある中で、放課GO→と放課GO→クラブ、この2つを区が学校施設において実施しているという点を踏まえて、事業の目的について考えを聞かせてください。
A事業者（施設長候補者）	学童クラブに関してですが、仕事の事情で、どうしても子どもを預けざるをえないという保護者の方のニーズにのっとった上で、運営を取り組んでいきます。放課GO→の方ですが、子どもたちに、遊びの場所、学習の場所を提供できる場としての運営に努めます。
E委員	学校の中で実施しているという部分についていかがでしょうか。
A事業者（施設長候補者）	学校内の施設であるというメリットはとて多く、1日を通して学校と同じルールの中で、学校のルールをこちらの職員で理解した上で、一貫した施設の中で過ごすことができるため子どもたちには安心感が与えられます。子どもたちは、担任の先生が大好きなので、学校の教室の中にいるときの先生と放課GO→で廊下で会う先生と違います。子どもたちのいろいろな側面を、こちらで学校行事に参加する中で知ることができ、学校の先生も放課GO→で活動している子どもたちの様子を見ることで、放課後の子どもの素顔が見られるのは、とてもメリットがあると思っています。
E委員	提案書自体も児童もそうですし、保護者、スタッフの方や学校地域支援を意識されている提案なので、非常に視野が広いなと評価をしております。危機管理についても伺いたいのですが、特に事業者においては他の施設での運営もある中で、本部支援という観点から、危機管理で最も注意している部分を具体的にお願いします。
A事業者	危機管理で一番大切にしていることは、子ども自身がいかに、そのけがや災害に遭遇したときに、自分の身を自分で守れるかという点です。私たちは、区のマニュアル条例の理解はもちろん、様々な専門的な訓練を受けて、子どもたちを守ることができるように、日々努めておりますが、いざというときに子ども自身が自分でどう判断をしてどう動けるのかというところを支援していくことが一番重要になるのではないかと考えております。大人が言ったからやるではなくて、なぜやらないといけないのか、具体的などころですと、ヘルメットのかぶり方について、タタメットを自分で広げら

	れるのかだけではなく、なぜあご紐を付けなければいけないのかと。面倒に感じてしまう低学年の児童に対しても、「なぜ」という部分を、大人と一緒に考えてサポートしていくことを大切にしております。また複数の施設を区内で運営しているというメリットから、職員が集まって、消防署のAEDをはじめとした、応急救護の研修を年に複数回行うことで、1回の機会だけでは参加できない職員も必ず他の施設のところに補講という形で参加をして、全職員が怪我への対応等ができるように研修を実施できているというのがメリットととらえております。以上です。
F 委員	大型イベントというのがあるのですが、具体的にこのようなことをした。過去のことですとか、今後のこと、どちらでも構いませんので、紹介していただけますでしょうか。
A 事業者（施設長候補者）	何にチャレンジをするかと子どもたちと話したとき、習字をやりたいと言いました。子どもたちに、1月のイベントで、大人から始めてもらったプレゼントをテーマに、自分の名前を書いてみようというイベントをしました。1年生は、初めて筆に触れ墨をつけることになりますが、書道を習っていた職員を中心に、書き方ではなく持ち方を教えるイベントをしました。子どもたちに漢字で書く、ひらがなで書くと聞いて、頑張って漢字で書いてみるということで、一生懸命に漢字で書きました。頑張って書いて、それを保護者が見えるところに置きました。子どもたちは保護者の方が迎えに来たらこれだ。すごく喜んでくれて、保護者の方も、こんなに書けたと喜んでいただいて飾っておりました。3月最後のお別れ会のときに、自分で書いた習字を持って、桜を背景に子どもたちの写真を撮影し、保護者と子どもたちに、お手紙を作ってプレゼントをしました。マスクを着用しなくてもいい時期だったこともあり、写真に写る子どもたちは満面の笑顔で、保護者の方が本当に喜んでくださりました。子どもたちも恥ずかしい一方で保護者に見てもらいたいという思いもあったので、大型とまでは言えないかもしれないが、子どもたちと保護者が本当に喜んだイベントとして、させていただきます。
D 委員	日頃の労務管理をする上で、心がけている点があれば、教えていただきたいと思います。
A 事業者（施設長候補者）	港区、学校、本部のルールにのっとりた上で労務管理はしております。大体システム化はされています。施設長である自分が日々管理をしていく中で、気になることはきちんと該当職員に話し、マニュアルにのっとりた上で、他の職員を管理していく上で公正に実施できるように、自分が責任を持って管理しております。
A 委員	この仕事をやっていてよかったと思うことを1つ挙げるとしたら何ですか。
A 事業者（施設長候補者）	毎日、保護者の感謝の言葉や子どもたちが笑顔で挨拶してくれること、私が手振ると子どもたちが手振りかえしてくれることなど、ささいなことですが本当にそれが幸せです。
A 委員	親御さんにはどんな挨拶されるのですか。

A事業者（施設長候補者）	こちらからも感謝をお伝えしたり、子どもの様子をお伝えしたりします。
A委員	中には難しい保護者もいらっしゃると思うのですが、今まででとても対応に苦勞されたというような例があったら1つだけ教えてください。
A事業者（施設長候補者）	「課題宿題を学童クラブの中で終わらせてほしい。おやつや遊びは宿題が終わるまでやらせていい。」という要望は本当に悩みました。子どもが泣いて宿題をやっているのを見ると、こちらも悲しくなります。もちろん保護者の方たちには、声掛けはできるが強制はできないという点を伝えるとともに、保護者の方には学童の中でほかの子が遊んでいるのに自分は勉強しなければいけないという環境で、子どもも泣いて、辛く感じてしまうという状況説明を何度も繰り返して対応しました。
A委員	繰り返し説明することが大事ですか。
A事業者（施設長候補者）	保護者の方も、時間で区切ってここまでと、少しずつ譲歩はしてくれるようになりました。やはり子どもの代弁をしてあげないと、子どもがかわいそうというのがあります。
A委員	施設長ですから現場で起こったこと、特に子どものことは、施設長の判断が大きいと思っておりますけれど、人権の問題について聞かせてください。人権も様々あり、言葉、性虐待、外国人の方への文化等マイノリティへの差別の問題も大きいと思います。そのような人権問題について施設の中でどのように、申し合わせたり、注意をし合ったりすることになっていますか。
A事業者（施設長候補者）	本当に多様性の問題がたくさんあり、自分が知らなかった価値観が、他の職員には当然ということもあります。もちろん研修は本部の方からもありますので、研修も受けた上で、他の職員とも共有して、実際に施設で発生したトラブルの事例やニュースの事例に対して、施設でどう対応していこうと話し合いすることで、対応方法をブラッシュアップして価値観を新しくしていくように努めています。様々なことが起きているので、すべての子どもを受けとめるという気持ちで全職員が取り組むようにしております。
A委員	全体の共有の場があると違うと思いますが、施設長の役割はどうですか。
A事業者（施設長候補者）	話し合いの場を設けます。やはりミーティングの場で、トラブルの事例を共有する場を設けることで、全職員で価値観を共有することで、その対応に努めます。
D委員	施設内で、ヒヤリハットこの共有の仕組みや工夫がありましたら、教えていただきたいです。
A事業者（施設長候補者）	トラブル、ヒヤリハットがあった場合は、必ず記録はとっております。記録を取った

設長候補者)	上で、それを必ず全職員が共有する中で自分はどうに対応するかを検討するようにしています。また、月1回の施設ミーティングで改めてヒヤリハットの事例を全員で共有します。スーパーバイザーのエリアマネージャーがミーティングに同席しているため、その場で対応のアドバイスももらいながら、マニュアル等に反映するようにしております。
委員長	今年の猛暑に対する対策というような事例があったら教えてください。
A事業者（施設長候補者）	猛暑だと外遊びができないため、学校と協議した上で、体育館はもちろん、さらに追加して別の部屋を用意していただきました。子どもたちはからだを動かせないと、ストレスがたまります。子どもたちが室内でも体を動かせる環境を整備しました。
A委員	わかりました。ありがとうございます。
委員長	時間になりましたので、プレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。 事業者の皆様、ありがとうございました。
	(採点)
	(2) B事業者（プレゼンテーション 10 分間、質疑応答 20 分間）
委員長	それではヒアリングに入らせていただきます。よろしくお願いいたします。
B委員	安全管理について取り組みを教えてください。
B事業者（施設長候補者）	遠足などで施設外に出ることがありますが、事前に必ず外出する職員全員で、ミーティングを何回か行い、下見に行きルートや危険箇所を確認します。その上で、子どもたちにも、わかりやすい言葉で共有することで、子どもたちにも安全意識を身につけさせることが重要になってくると考えております。
B委員	課題のある児童に対して、具体的な取組を教えてください。
B事業者（施設長候補者）	課題のある子に関しては保護者の方もすごく心配して、預けることが多いと思います。今までは慣れた関係の保育園から新しい環境になるため、入会前にしっかり保護者とどういうところに本人が課題を感じているのか、そこに対して保護者がどのような心配をしているのかを、丁寧にコミュニケーションを取った上で、施設としてどのようなフォローができるかを伝えます。面談をした職員だけが知っていればいいということではないので、全職員に向けて、入会予定の児童の特徴や保護者の考え方、施設での支援方法を伝えるとともに、入会した後も定期的に全職員とミーティングをする中で、課題や支援方法を検討し、それを保護者にまた伝えることで、保護者としても安心でき、職員も安心でき、児童本人も心地よく過ごせるのではないかなと思います。

C委員	5年の経験が施設長としてあるということで職員の方に何かしらの問題点や、資質能力に不足があった場合、施設長から、こういう研修を受けたらというアドバイスした経験がありますか。ないとすればどのように取り組みますか。
B事業者（施設長候補者）	職員もいきなり研修を勧めてみても、なぜその研修を受けなければいけないのかと感じてしまうと思いますので、まずはその職員とコミュニケーションを取って、「あなたの育成のこういうところはすばらしいと感じている。だけど、もうちょっとここに力ついたらもっとすばらしい先生になれると思う」などと口頭で伝えた上で、会社でこういう研修をやっているから受けてみないという提案はできると思っています。また、私自身が研修を積極的に受講する姿を見せることで、施設長が研修をいっぱい受講しているから、自分も受けていい、自分も学ばなくてはと思う姿勢は作られていくかと思います。私自身も学ぶ気持ちは変わらずに持っていきたいと思っているのと同時に、職員の人にもどんどん学ぶ力をつけて欲しいと思っています。経験としては、研修を勧めることはしなかったです。口頭で「こういうところはいいいけど、こういうところに力をつけたらいいのでは」という提案をしたことはあります。
C委員	児童の人権への配慮で今まで経験した問題がありますか。あるとすれば、今後どのように取り組んでいくべきか、職員とコミュニケーションをとっていますか。
B事業者（施設長候補者）	今まで私が勤務してきた中で、特にこのような多様性の問題、トラブルになった事例があまりありません。私が勤務していて感じるのは、子どもたちはあんまり気にしておらず、この子はこういうことだよと自然と受け入れているということです。
C委員	いじめや障害のある児童等ここ書いてあるもの全部含めた中で、何かあれば、問題点あったかどうかお聞きしたいです。
B事業者（施設長候補者）	障害のある子に関しても、一人パニックになってしまったときに、その子に対して別の児童からフランクに聞かれたため、「今ちょっと気持ちが落ち着かなくなったからかもしれないね」と言ったら、子どもたちは、受け入れてくれるので、大人が変に構えすぎるより、大人もある程度フランクに関わっていった方がいいと考えています。障害に関しても、性的マイノリティの方に関しても、「私に聞かれてもわからないから、本人に聞いてみたら」と言ってみることで、聞かれた児童も気にしていないところがありました。大人が考えすぎるよりは客観的な事実を伝えてあげると、子どもたちで受け入れてくれると私は今までの経験上は感じています。他の職員に対しても、そういった声掛けという形で対応していきたいと思っています。
E委員	放課GO→と学童クラブを、学校の施設において実施しておりますが、この事業の目的についての考えをお聞かせください。
B事業者（施設長候補者）	学校内に放課GO→、学童クラブ機能があるということは、保護者の方も安心するし、子どもたちも学校からそのまま直接行ける安心感は、すごく強いと思っております。運営していく上では、安心安全を担保した上で、児童が帰るときは1人で帰らなければいけない部分もありますので、児童への安全指導というのはしっかりしていきたい

	とっております。
E 委員	放課GO→と放課GO→クラブのそれぞれの違いについていかがでしょうか。
B 事業者（施設長候補者）	放課GO→はやはり1年生から6年生まで、誰でも参加でき、みんなが楽しく過ごせるという、学年交流が特に進みやすい部分が特色と考えております。高学年になると放課GO→に来ることが減ってしまうかもしれませんが、それは子どもたちの成長なのかとは思っている反面、やはり放課GO→に行きたいと思うのは児童にとって選択肢の1つではあって欲しいと思っております。学童クラブに関しましては、保育園の延長というところも強いのかなと思いますので、保護者の方が就労などで、家にられない中、子どもたちが安心して、その施設で過ごすことができ、保護者の方も安心して仕事などに取り組めるというところを大切にしていきたいなと思います。安心安全感を学童では作っていききたいと思っております。
F 委員	御成門小学校との連携体制について具体的に考えていることを教えてください。
B 事業者（施設長候補者）	以前勤務していた、放課後総合プラン、子ども総合プランの施設も学校内にありました。そこで培った経験はすごく生きてくると思っております。全職員が気持ちよく学校の職員と挨拶して、コミュニケーションがとれるというところが一番重要なのではないかと考えています。放課GO→クラブで起きたこともすべて学校と情報共有することが重要だと感じております。放課GO→クラブで起きたことを、帰宅して、保護者が学校の連絡帳に書かれたりすることで、学校の先生が驚かれてしまったということがありましたので、情報共有することで、放課GO→クラブでこういうことがあったから、学校生活でも気をつけて見ていかなければいけないというのはあると思います。副校長先生とは、毎日コミュニケーションがとれるような形を作っていきたいと思っております。私が施設長になりましたらそのようなコミュニケーションを取ることは可能かどうかを確認していきたいと思っております。
F 委員	具体的にいつ副校長と話をしたいと考えていますか。
B 事業者（施設長候補者）	放課後は副校長先生が退勤してる可能性がありますので、先生とコミュニケーション取るのに都合がいい時間帯を確認させていただきます。以前の学校で大体いつも11時頃に職員室に来て欲しいと言われていたので、その時間にお伺いして、コミュニケーションとらせていただきました。遅い時間に連絡することが起きた場合には、メモなどを残すととともに、職員室におられてる先生やシルバーさんにもお伝えして、連携をとらせていただいたこともありました。
F 委員	その際、個人情報の管理の部分ではどのように考えていますか。
B 事業者（施設長候補者）	イニシャルという形で、伝えることになってしまうので、翌日しっかり対面したときに、個人名はお伝えした上で、具体的な内容をお話しさせていただこうと思っております。

D委員	日頃労務管理する上で心がけていることについて、教えていただきたいです。
B事業者（施設長候補者）	私がしっかり勤務時間を守るという姿勢を見せるのが大事だと思っております。残業をなるべくしないように、業務もしっかりと割り振りをしていきたいと思っております。また毎日職員間でミーティングをする中で、今日はこういう仕事をします。仕事の進捗状況等を職員間で共有することで、今の勤務時間に合った業務内容になっているかを確認し、難しいのであれば、他の空いている職員に手伝ってもらい、内容を確認した形で、労務管理をすることで残業をなくす努力をしていました。
D委員	施設内のヒヤリハットの共有の仕組み、教えていただきたいです。ヒヤリハットの報告がしやすくなるような工夫について、もしあれば、教えていただきたいです。
B事業者（施設長候補者）	全職員を含めたミーティングも毎日行っております。例えば前日に起きたヒヤリハットを全職員で確認して、注意喚起を行います。当日休みだった職員に関しては、ミーティングの後に連絡ノートに記録することで、全職員がしっかりとヒヤリハットが起きた状況や内容を確認して、対策も考えられる状態にすることが、施設内でできることと考えております。エリア内研修などもありますので、他のエリアで起きたヒヤリハットに関しても、施設内に情報として入ってきます。他の施設でこういうヒヤリハットがあったので、この施設で発生する可能性があるヒヤリハットに対して、マニュアルにのっとって対応できるよう、全職員がしっかりと把握するということが重要だと思いますし、そのようにしていきたいと思っております。
A委員	共有するだけで、話し合いは行わないのですか。ヒヤリハットのケースをもとに、体制を組むなど、具体的な対策は考えていますか。
B事業者（施設長候補者）	職員で話し合いをしまして、そのヒヤリハットに対して、職員配置が今のままだと足りないから、校庭に行く人数を少し増やそうとか、具体的な例をもって対策していきたいと考えています。
A委員	アルバイトの方も大変多い会社だという印象を持っています。やはりどういう働き方、管理の問題、残業の問題以外にも、職員全員でどのように子どもたちを育てていくか、保護者にどのように対応していくかの考えを教えてください。
B事業者（施設長候補者）	子どもたちにとっては、放課GO→クラブが行きたい場所になっているという点が大事だと思っております。学童クラブは保護者が就労などの状況でいないから、行かなければいけない場所になってしまっている児童も、中にはいると思います。やはりそうすると、行きたくないという気持ちが強くなってしまうのはもったいないです。保護者にとっても不安材料になってしまおうと思います。どんな子どもも行きたいと思える場所になるよう、静かに過ごしたい子もいれば、友達とワイワイ遊びたい子たちもいるということもあるため、スペースを分けるなど、いろいろな過ごし方の選択肢を与えることが、重要と思っております。

A委員	研修について、書類によると 100 種類の研修内容があるということですが、100 種類とはどのような内容、範囲ですか。
B事業者	当社は保育園も多く、保育士や看護師、栄養師もあり、そちらに向けた研修も含めてのすべてで 100 種類と記載をさせていただいております。学童向けのもので 100 というだけではなく、どの研修も受けられるようにはなっております。学童の職員でも、乳幼児の発達が気になる場合には保育士向けの研修も受講できます。参加の仕方は新型コロナウイルス感染症の流行以降はオンラインでの研修が多くなっていますが、オンラインで受ける時も全員顔が見えるような形で講師とコミュニケーションがとれるように心がけて実施をしております。
A委員	書類上の書き方と思うのですが、アルバイトが大変多いです。アルバイトの配置にあたり、グルーピングをするときやグループに責任を持たせなければいけないときの体制づくりというのがあると思うのですが、会社としてはどのように考えているのですか。
B事業者	施設ごとに常時社員を 1 人は置くようにしており、子どもが 1 人だけだったとしても、常時 2 人以上の職員を配置することにしています。そのうち 1 人は社員を置くということを、常に徹底しております。アルバイトだけという場面が、基本的にはないような配置を考えております。
委員長	時間が参りましたので、これでプレゼンテーション及びヒアリングを終了させていただきますしたいと思います。事業者の皆様ありがとうございました。
	(採点)
	3 第二次審査結果及び運営事業候補者の選定について
委員長	採点の集計結果について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	A事業者、第一次審査が、918 点、第二次審査が 492 点、合計 1,410 点です。 B事業者、第一次審査が、867 点、第二次審査が 424 点、合計 1,291 点です。
委員長	各委員の皆様から講評をお願いいたします。
B委員	A事業者は、提案書で非認知能力の育成をすごく強調していたので、施設長の認識は、どうなっているのか具体的な取り組みについて本当に盛り込むのか、考えを聞きました。知識を持って遊び体験を提供できるように取り組む姿勢が見られたので、その点を高く評価しました。子どもと接して遊んでいる姿がすごくイメージしやすい、親しみやすい感じがする施設長候補者という印象でした。もう少しだけ発達課題のある方の対応など、簡潔に教えてくださいと言いましたが詳しく回答していただけたらと思いました。提案書にその部分よく書かれていただけて、少し残念には感じました。全体的には本部のバックアップに加えて、施設長候補者の方の経験を生かした、バイ

	タリティ溢れるアクティブな新たな取組が進められることが期待されると、評価しました。 B事業者は、地域との繋がりを意識した取り組みに力を入れていて、地域特性を理解しようとする姿勢が重要ですので、高く評価をしました。施設長候補者の方は、非常に落ち着いた回答ができており、冷静に安定した、管理運営ができる施設長という印象でした。少し子どもとの距離を感じるような部分が回答の中からありましたが、施設全体を客観的にとらえることができていますので、その印象が強くなってしまっているかもしれないと感じました。AとBの施設長候補者のタイプがかなり異なるので、どちらも違う魅力があってそれぞれ必要な能力はあるとは感じます。 ただしB事業者の施設長候補者が子どもに、行きたい居場所づくりについての質問のときに、遊びのエリアを分けることというのが出てきたのですが、その部分が、子どもに対する理解の部分や居場所づくりについての考え方が不足しているように感じました。そのようなことからB事業者の評価が低くなりました。以上になります。
C委員	A事業者については、わずか3年ちょっとの施設長の経験ですが、施設長候補者が経験を踏まえての資質能力やまとめる力は非常にあるような気がしました。本当に子どもたちとこの遊び方がイメージできるので、やはり楽しい場を作ることにおいても、施設長はいいなと思います。私はいつも似たような質問で比較をするつもりでやっているのですが、何か問題があったときにどういうふうに対応するかというときも、A事業者の施設長候補者は、まずコミュニケーションを図ってからスタートしていくということを非常に具体化して話をしてくれたので、施設を任せられると感じました。施設候補者として、本事業を実施するにあたっての本部の支援体制が十分であれば、より施設長候補者の力が生きてくるだろうというところで、評価を高くしています。 B事業者の方は、施設長候補者はタイプが違いますが、同事業の経験があって、F委員が質問したときに、具体的に時間なども答えているというところが、これは本当に経験が踏まえられているのだと感じました。具体的説明が施設長候補者の経験を物語っていると感じました。ただ一方で、もちろん本部の支援体制も十分出れば、かなりの取組とは思ったのですが、安全対策と危機管理の方に入れたのですが、施設長にも関わるのですが、性的マイノリティなどのときに、客観的事実を伝えればいいのかというところで終わるのが、それはそうなのだろうが、それ以外の部分はないのかと少し不安が残り、経験は十分にあるような気はしたのですが、その部分で点数を下げてトータルの点数になりました。以上です。
E委員	私は全体的に、この放課GO→と放課GO→クラブという名称にはなっていますが、育成事業という観点から、どのように育成をしていくのかという提案を見ました。 A事業者に関しては、全体的に育成という観点が見られていて特に危機管理の部分で、本部や職員がこうしますというのではなくて、子どもが自分で身を守れるように育成をするということが重要と答えていたのが、印象的で評価しています。当然、施設や職員のやる気、管理というものはあった上での視点ということになります。 B事業者の方は楽しい場所、安全安心というものはもちろん重要なのですが、全体的に児童をどう育てていくのかという視点が、不足していたと感じております。そういう意味合いで目的的部分を低く評価をしています。個別具体的な部分になりますけれ

	ども、A事業者に関しては、施設長の話は、すごく熱意を感じました。施設長だけではなくて、本部の職員の方も児童目線というものが向けられていたので、現場だけではなくて本部含めて、安定した運営が期待できるものと考えています。学校に対しても非常に意識が向けられていて、児童中心ではありますが、学校生活、学校に関して述べられていた点も評価をしています。 B事業者に関しては、私も最終的には多様性の配慮が少し足りないなという印象です。構え過ぎないという回答があったのですが、できれば当事者目線での回答をいただいた方が、より施設長の魅力が理解できたかなと感じています。一方で、B事業者は危機管理や学校生活などに関しては、関係者や職員と情報共有をしっかりとやっていきたいという部分に関しては、私の方は評価をしています。以上です。
F委員	私は両方の事業者とも、適切な事業者であると思い、聞き取りました。 A事業者の方が、安全対策、危機管理、事業内容の2点について、具体的な内容もプレゼンの中に資料としてもあり、説明の中でもあったことから差をつけています。その部分で総合評価でも差をつけました。
D委員	A業者については、概ねすべてのものについて良いと思いました。 B事業者と差がついているというのは管理運営についてです。施設候補者としてA事業者とB事業者を比べたとき、子どもとの接し方について疑問を感じたため、B事業者については少し点を落としております。また、総合評価の点では、A事業者を比べてB事業者、事業実施への積極的な意欲は読み取れ、様々なことを考えているのだと思ったのですが、将来性、発展性が伝わらなかったため、A事業者とB事業者の差がつかしました。
A委員	ヒアリングに焦点を当ててみますとA事業者は大体満遍なく、安定性のある評価を出しました。施設長候補者については、子ども対応が良いというのは、委員の方々がおっしゃった通りでハートがありました。子どもたち、この人の場所なら帰ってきたいと思うだろうと感じました。非認知能力の育ちとしても、安心感を持つ場という意味では、非常に大事な要素だと思い、高く評価をしました。仕事への関心、意欲も非常に高いのでこの辺は高く評価をしました。聞きそびれていたのですが、資料の中にも詳しくは見えなかった高学年の対応について、地域によっては高学年のニーズも非常に増えてきていることから、高学年の居場所づくり、非常に重要だと考えていますが、そこに対する意欲が乏しいということが、少し残念な気がしています。職員の管理ですが、システムティックな意見が出るとよかったという気がしていて今後の課題だと思います。 B事業者がA事業者に比べて、弱かったのは施設長候補者です。プレゼンテーションの説明は、会社の説明を代理でしているようで、施設長候補者としての自分の考え方、役割認識があって欲しかったです。ただ、すごく意欲として評価をしたのは、保育士の資格を取りたくて、学校に入ったという点で、非常に努力される方なのだと思います。 A事業者もB事業者も、資格は中学校・高校の確か免許状なので、小さい児童の経験はなかなか難しいと思います。少し経験や学びが足りないのは両者共通しているのですが、B事業者の方がその点を自分で補いたいと思って認識したということが高く評

	働しました。労務管理の問題は減点の対象にしました。施設長の認識として、放課G O→おなりもんクラブ事業が、ただ子どもが安心して安全に家庭に代わって過ごす場所 だけではないという認識を持ってもらわないと困ると思いました。なぜなら事業の趣 旨に記載されているとおり、児童福祉と次世代育成の役割を負っているわけです。そ の認識を持ってきちんと受けとめて、実際の現場にどう反映させていくか、子どもを 育てていくかということを保護者や地域ともに力を合わせるようになるという認識 が非常に欠けているというのが減点対象です。以上です。
委員長	点数の変更等はございませんでしょうか。 (意見なし)
委員長	それでは、第一次審査・第二次審査合計点数及び順位を発表します。 1 位、A 事業者、合計点数 1,410 点 2 位、B 事業者、合計点数 1,291 点 よって、港区放課G O→クラブおなりもんの運営事業候補者は、1 位のA 事業者でよ ろしいでしょうか。 (異議なし)
委員長	それでは、当委員会は、港区放課G O→クラブおなりもん運営事業候補者として、A 事業者を選考いたします。
事務局	事業者名を発表いたします。A 事業者は、株式会社プロケア 港オフィスです。 4 その他 5 閉会 (委員長閉会のあいさつ)